

令和6年度 東京都福祉人材確保対策推進協議会 第1回専門部会（人材確保部会）
議事概要

1 日時

令和6年7月24日（水） 午後2時から午後4時まで

2 場所

ビジョンセンター西新宿702

3 主な意見（議題：次世代の福祉人材確保に向けた取組について）

（1）各主体と子供たちの関わり合いについて

- ・地域の小学校からの職業調査や、中学校及び特別支援学校の職場体験の受入れを行っている。市内の中学校へはこちらから出向く形で職業講座も行っている。これらの活動は、様々な地域活動を行っている中で機会をいただいております、待っているだけではなく、地域との接点を積極的に持つことが重要である。
- ・人材の確保・育成・定着に向けて委員会を設けて色々検討しているが、中高生など若い層へのアプローチが課題となっている。
- ・地域の小学校の校長先生と関係性ができ、それを通じて、創作活動や展示等で小学校と交流している。コロナ禍前は施設独自で地域交流会を行っており、今年は4年ぶりに再開する予定である。
- ・小・中学生を対象にして出前講座を行っているが、ここ数年、中学校からは希望がなく、小学生には福祉学習として障害理解を基本的な内容としている。中学生が少ないのはコロナ禍の影響というよりも、やらなければならない様々なカリキュラム等が多いことが要因であると思われる。
- ・小中学生は明るいイメージで社会貢献になるといったアプローチでいいが、高校生にはきつい仕事といったネガティブな印象を払拭していくための取組など分けていく必要があるのではないか。
- ・出前授業な継続的に行っているところと、少子化やコロナで減少しているため、外国人向けの取組にシフトしているところと二極化している。中学生に実施した体験授業ではクイズ形式でやるほうが理解は深まる。また、若い子はICTとかデジタルの関心が強い。
- ・ボランティアについては、人材確保という点では直接的ではないが、ボランティア体験したことで結果的に福祉分野に進んだ方もおり、長期的に見れば業界への理解に役立っているのではないか。

(2) 各主体の取組を有機的に繋げるためにはどうすればよいか

- 職場体験に来てくれた中学生が、その後継続的にボランティアに来てくれているという例がある。また、不登校の学生がボランティアに来てくってから、少しずつ学校に行きだしたという例もあった。職場体験は関係性がある近隣の学校から直接依頼を受けて、毎年受け入れを行っている。
- 職場体験は福祉の現場を知っていただき、昔のイメージを払拭していくことが第一の目的であるため、体験した学生とその後繋がっている事例は今のところなく、どのようにしていくべきか考えていかなければいけない。
- 学校の先生の考え方次第で関係性を構築できることがあるため、現場の先生の考え方は重要である。